

## アレルギー症状

### 体内時計で緩和 山梨大がマウス実験

毎日新聞 2016年4月5日 11時14分 (最終更新 4月5日 13時12分)

山梨大医学部の中尾篤人教授（免疫学）らの研究グループは、1日周期で体のリズムを刻む「体内時計」に作用する物質を使い、花粉症などのアレルギー症状を和らげる仕組みが人やマウスの細胞実験で分かったと発表した。中尾教授は「治療薬の開発に向けて前進した」と話している。

花粉症は、目や鼻の粘膜などにある免疫細胞が花粉に反応して症状が出る。特に、くしゃみや鼻づまりなどアレルギー疾患の多くは、昼に軽く、夜間や朝方は重くなる傾向にあると言われている。

この変化について、中尾教授らはこれまでの研究で、免疫細胞内で体内時計を動かすたんぱく質が関わっていると突き止めていた。このうち一つのたんぱく質が減ると症状が悪化することも知られており、中尾教授らは今回、このたんぱく質を分解・減少させる酵素「カゼインキナーゼ」の働きを抑える物質をマウスに与えた。

米国の製薬会社が不眠症の治療薬を作る過程でできた化合物の一種で、マウスに投与すると、「くしゃみ」や「鼻かき行動」などの症状が軽くなり、人間でも花粉症患者の免疫細胞を採取して同様の実験を行った結果、症状が和らぐことを示す反応が出たという。体内時計が夜から昼に切り替わったためとみられている。

中尾教授は、アレルギー疾患にも効果がある可能性があるとして、この製薬会社と実用化に向けた準備を進めている。中尾教授は「これまでとは違い、新たなアプローチの治療が可能になる」と期待している。【松本光樹】

# 花粉症 「体内時計」で緩和

山梨大医学部の中尾篤

人教授(免疫学)らの研

究グループは、1日周期

で体のリズムを刻む「体

内時計」に作用する物質

を使い、花粉症などのア

レルギー症状を和らげる

仕組みが人やマウスの細

胞実験で分かったと発表

した。中尾教授は「治療

薬の開発に向けて前進し

た」と話している。

花粉症は、目や鼻の粘

膜などにある免疫細胞が

花粉に反応して症状が出

る。特に、くしゃみや鼻づ

まりなどアレルギー疾患

の多くは、昼に軽く、夜

## 山梨大グループ マウス実験

間や朝方は重くなる傾向にあると言われている。

この変化について、中

尾教授らはこれまでの研

究で、免疫細胞内で体内

時計を動かすたんぱく質

が関わっていると突き止

めていた。このうち一つ

のたんぱく質が減ると症

状が悪化することも知ら

れており、中尾教授らは

今回、このたんぱく質を

分解・減少させる酵素

「カゼインキナーゼ」の働きを抑える物質をマウスに与えた。

米国の製薬会社が不眠

症の治療薬を作る過程で

できた化合物の一種で、

マウスに投与すると、「く

しゃみ」や「鼻かき行動」

などの症状が軽くなり、

人間でも花粉症患者の免

疫細胞を採取して同様

の実験を行った結果、症

状が和らぐことを示す反

応が出たという。体内時

計が夜から昼に切り替わったためとみられている。

中尾教授は、アレルギー

疾患にも効果がある可

能性があるとして、この

製薬会社と実用化に向け

た準備を進めている。中

尾教授は「これまでとは

違い、新たなアプローチ

の治療が可能になる」と

期待している。

【松本光樹】

一部地域既報

## 症状悪化の酵素抑制

- 主なサービス
- ショッピング
- ヤフオク!
- LOHACO
- 旅行、ホテル予約
- ニュース
- 天気
- スポーツナビ
- ファイナンス
- テレビ
- GYAO!
- ゲーム

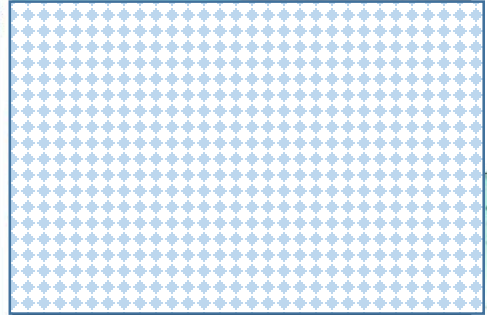
14時8分更新

- 日銀緩和3年 見えぬ脱デフレ NEW
- 乳母車事故 車掌警報に気付く
- 議会で「辞めます」町議辞職
- 北朝鮮の再処理施設で煙 米 NEW
- 教諭 男児に「一生許さへん」
- アレルギー 体内時計で緩和 NEW
- 元156半口左腕 社内崇伸の今
- 波瑠 朝ドラ高視聴率に感激 NEW

もっと見る 記事一覧



知床で除雪  
4月5日12時23分配信  
読売新聞



Ads by Yahoo! JAPAN

## <アレルギー症状> 体内時計で緩和 山梨大がマウス実験

毎日新聞 4月5日(火)11時14分配信



山梨大医学部の中尾篤人教授（免疫学）らの研究グループは、1日周期で体のリズムを刻む「体内時計」に作用する物質を使い、花粉症などのアレルギー症状を和らげる仕組みが人やマウスの細胞実験で分かったと発表した。中尾教授は「治療薬の開発に向けて前進した」と話している。

花粉症は、目や鼻の粘膜などにある免疫細胞が花粉に反応して症状が出る。特に、くしゃみや鼻づまりなどアレルギー疾患の多くは、昼に軽く、夜間や朝方は重くなる傾向にあると言われている。

この変化について、中尾教授らはこれまでの研究で、免疫細胞内で体内時計を動かすたんぱく質が関わっていると突き止めていた。このうち一つのたんぱく質が減ると症状が悪化することも知られており、中尾教授らは今回、このたんぱく質を分解・減少させる酵素「カゼインキナーゼ」の働きを抑える物質をマウスに与えた。

米国の製薬会社が不眠症の治療薬を作る過程でできた化合物の一種で、マウスに投与すると、「くしゃみ」や「鼻かき行動」などの症状が軽くなり、人間でも花粉症患者の免疫細胞を採取して同様の実験を行った結果、症状が和らぐことを示す反応が出たという。体内時計が夜から昼に切り替わったためとみられている。

中尾教授は、アレルギー疾患にも効果がある可能性があるとして、この製薬会社と実用化に向けた準備を進めている。中尾教授は「これまでとは違い、新たなアプローチの治療が可能になる」と期待している。【松本光樹】